

26	小夜の中山、命の峠	東海道三大難所の一つ小夜の中山は、「夜泣き石」や「怪鳥退治」など伝説が多い。なぜか。	岡部	第7集
27	掛川城と大日本報徳社	掛川は、山内一豊が秀吉の伏見城をモデルに天守閣を取り入れた。明治時代に廃城後、平成6年に再建された本格的木造天守閣。	掛川	第7集
28	秋葉街道	秋葉信仰は防火・鎮火の火伏信仰。全国的な広がりを持つ。その一大聖地秋葉山(浜松市)へ通じる道は、塩の道でもあった。	掛川	第7集
29	遠州三山	袋井の観光といえば「遠州三山」めぐり。三山とは、法多山尊永寺、萬松山可睡齋、医王山油山寺だ。油山寺には掛川城の門が移築。	袋井	第8集
30	姫街道	浜名湖の北を通る東海道の脇往還約60km。浜名湖の今切渡しや厳しい新居関所を避けて、多くの人利用した。	浜松	第8集
31	浜松城は出世城	浜松城は、徳川家康が今川氏が築いた引間城を拡大、名も改めた。家康の後に入城した大名が6人も老中になり、出世城と呼ばれる。	浜松	第8集
32	浜名湖の幸	浜名湖といえば、ウナギ……だけではない！ 牡蠣、トラフグ、スッポン、海苔、シラス、アサリ、どれも名産である。	浜松	第8集
33	今切と新居宿・関所の二度の移転	浜名湖近隣の舞坂、新居、白須賀の3つの宿は、浜名湖の災害史と無関係ではあり得ない。古来、舞坂と新居は陸続きだった。	浜松	第9集
34	遠州の空っ風	遠州の風を「空っ風」と呼んだのは、それほど昔ではない。大正～昭和初期にかけて遠州地方で繊維産業が盛んになった頃だ。	新居	第9集
35	二川のシンボル・岩屋観音	西へ向かう東海道線が二川駅を出てすぐ、岩山に立つ像が見える。もとは行基が奈良時代に千手観音像を安置したのが始まり。	二川	第9集
36	豊川と豊橋	豊川は愛知県北部から三河湾へ注ぐ77kmの川。下流に肥沃な土をもたらす。豊川に架かる豊橋は江戸時代に許された数少ない橋。	二川	第9集
37	消えた小田淵の松並木を思い浮かべて	江戸時代、街道には松並木が整備された。この先の御油が有名だが、小田淵、白鳥も立派な松並木だった。旧道の変遷とをたどる。	吉田	第10集
38	「歴史国道」藤川宿とむらさき麦	国交省選定の「歴史国道」は東海道に三つしかない。その一つが藤川。藤川を特徴づけたのが芭蕉の句にある「むらさき麦」だった。	御油	第10集
39	宿駅伝馬制と岡崎宿伝馬町	「伝馬」とは何だろう。箱根駅伝の「駅伝」とは宿駅伝馬制のこと、つまり宿場を継ぐ、宿場ごとに馬を乗り換える制度である。	藤川	第10集
40	家康と岡崎 徳川家菩提寺の大樹寺	岡崎は東海道の生みの親でもある徳川家康の生誕地で、ゆかりの場所も多い。大樹寺には、徳川14代までの等身大位牌がある。	岡崎	第10集
41	池鯉鮒・無量寿寺とかきつばた	国宝尾形光琳の「燕子花図屏風」の題材は『伊勢物語』の「八橋」だが、知立市にある無量寿寺の八橋がモデルと言われる。	知立	第11集
42	桶狭間古戦場の地形的検証	戦国時代合戦史で最も有名な桶狭間古戦場は、有名なのに正確な場所が特定されていない。豊明市と名古屋市緑区の2説がある。	鳴海	第11集
43	鳴海の地形的感動	鳴海は、宅地造成や道路新設で江戸時代の地形を思い浮かべることは困難だ。天白川をどこで越えるか。道の絶妙なカーブ。	鳴海	第11集
44	なし	道マップ部分にスペースを割いたため、なし。		第11集
45	四日市の東海道が北→南を通る理由	東海道は東から西へ行くものだが、桑名からは南へ向かう。鈴鹿山脈の険しい尾根を避け、通過しやすい鈴鹿峠を選んだ。	四日市	第12集
46	四日市思案橋と徳川家康	天正10年、本能寺の変が起きた時、家康は大坂堺見物をしていた。この非常時に岡崎へ帰還したルートの一つが、四日市経由だ。	四日市	第12集
47	伊勢参り・日永追分	江戸時代後期、お陰参りという集団参詣が大流行。日永は江戸方面の旅人が伊勢路へ向かう分岐点。弥次喜多もここから伊勢へ。	四日市	第12集
48	日本古代史の道を歩く―「壬申の乱」	日本古代史の大事件「壬申の乱」。後の天武天皇が兄・天智天皇の息子大友皇子から逃れ、追討に向かった道が、東海道と重なる。	鈴鹿	第12集
49	亀山ローソク	亀山は「液晶のシャープ」で有名だが、ローソクも有名だ。出荷額は全国1位だが、その歴史は昭和になってからと意外に新しい。	亀山	第13集
50	筆捨山	鈴鹿峠に向かう途中に見える山。狩野元信が描こうとすると、雲が立ち込め山容が見えず、ついに筆を捨てたことに由来。	坂下	第13集